



管玉



白玉



アクセサリー

勾玉のほか、ペンダントトップや管玉・白玉が出土しました。これらは、すべて連ねてネックレスとして利用されたと考えられます。中でもメノウの勾玉は、大きく優品であることから、権威の象徴であった可能性があります。



ペンダントトップ



土師器

須恵器

土師器・須恵器

多数出土した土器には、素焼きの土師器と窯で焼かれた須恵器があります。調理に使った鍋などはあまり出土せず、食器である椀、液体を入れた壺、お供え物を乗せる高杯が多いなど、一般的な集落とはずいぶん構成が異なります。また、須恵器には畿内で生産され、持ち込まれたものも認められました。



古墳時代の弓（長さ 130 cm）

両端部には弦を張るための加工がなされています。材質は、ハイヌガヤなど弾力性に富んだ素材と考えられます。

水田の跡

現地表下約3mの深さから古墳時代中期の水田を検出しました。土石流によって流されてきた砂利に覆われていたため、それを取り除くと、当時の水田が姿を現しました。畦の高さは数cm～5cmほどと低いものの、みな同じ方向を向いており、1辺1.5～3mほどの小さな区画が整然と築かれていました。

水田の区画は、当時の地形に沿うように設計されたようで、上の水田から下の水田へと水を落としていくような構造とみられます。古墳時代の水田は、県内でも発見例が少なく、貴重な資料といえます。



整然と整備された水田